タイ・フィリピン・宮城・カンボジア各国の、その時々のホットなニュースをお届けします♪（年４回発行）

C４Cだより

一般社団法人コミュニティ・4・チルドレン
〒545−0021 大阪市阿倍野区阪南町1−45−1−302
TEL:06−6622−5645 ／ FAX:06−6621−7139
メール:community_4_children@yahoo.co.jp
HP:http://www.community4children.com/

＼ フィリピン ／

子どもも保護者も地域の方々も、一緒に取り組んだ上半期、現地から届いた近況をお届けします！

9月 自身が暮らす地域、みんなできれいにしました！

自然に親しむこと、地域に貢献することを目的に、バギオ市内の公園の環境美化・整備活動を行いました。子どもたちや保護者だけでなく、警察学校の学生など地域で連携する団体の方々も一緒に参加してくださいました。

子どもたちは、仲間と交流や協力をしながら、草取りや植栽に取り組んでいました。自然の中で身体を動かし、心も身体ものびのびと、屋内での活動とはまた違った表情が見られました。

10月 「今日の喜び、昨日の思い出、明日への希望」をテーマに23周年目へ

リハビリテーションセンター運営22周年を記念し、子どもたちやご家族の健康を願って、連携する専門医や医療系ボランティア団体等の協力を得て、「健康フェア」を開催し143人が集いました。

体調のことで不安なことがあっても、経済的な面などから、早期に医療機関にかかれないご家庭もあります。健康フェアでは、血圧や血糖値の測定、歯科や耳の健診、ビタミン剤の提供などを行い、子どもや保護者自身の体調に関する相談やアドバイスも行いました。

保護者に大人気だったのは、なんといっても、リフレッシュコーナー。マッサージセラピーやネイルケアの技術を持つ保護者が、他の保護者たちに“ホッ”とする癒しのひと時を提供し、保護者間の交流の時間にもなりました。

11月 今年度の新たなチャレンジ、チャリティ・ズンバを初開催！

現在、自主財源の獲得とネットワークの構築を目的に、チャリティ・ラン「Run for Amity（友好ラン）」の開催や募金箱の設置などに取り組んでいますが、今年から、新たに「チャリティ・ズンバ」を企画！23日にラ・トリニダッド町の体育館にて開催し、269人が参加、約85,000ペソ（約182,750円）の寄付金が募りました。

ズンバは、ラテン音楽に合わせてダンスするエクササイズプログラムです。日本のラジオ体操ならぬ、バギオ市の早朝の公園では、ズンバで体を動かすグループが複数見られます。当日は、参加者の動きがシンクロし、会場全体に一体感が広がり、終了時には自然と拍手が沸き起こっていました。

（文責：山田）

＼タイ／ ノーンメック村に今年は雨降らず。来年は稲が豊かに実りますように。

タイではノーンメック村でコミュニティを上げて有機農業を推進するために、村人たちと実験農場で稲作を行ってきました。

しかし今年は、干ばつのため稲が全部枯れてしまい、稲刈りができませんでした。8月には日本人、カンボジア人やタイ人も一緒になって田植えをしたというのに・・・。他の地域では大雨のため洪水に悩まされたにも関わらず、なぜかノーンメック村周辺だけ雨が降らず、私たちだけでなく他の村人たちの稲もほぼ壊滅状態でした。

天水に頼らなければならない農業は、リスクを伴います。数年に一度やってくる干ばつに対して、村人は多様な収入獲得方法を模索することで対処しようとしています。

副業の一つとして、村の若者たちと始めた草木染ですが、染めのデザインは向上しました。いつか皆さんの手元に届けることができると期待しています。そして来年、雨に恵まれて稲の収穫ができるように見守ってください。（文責：加藤）

再会や新たな出会いを楽しみに！

2020年9月にカンボジアで第2回青少年国際交流キャンプ開催を計画しています。

第1回目は、2016年にタイで開催し、C4Cが支援する団体と関係する若者たちがフィリピン、タイ、カンボジア、日本から集まり、活動経験や食文化の交流を行いました。2020年に行うキャンプは、その名も「Food Camp」と称して、安全な食を目指しながら各国の料理を手作りして交流します。進行状況は、Facebookやホームページで随時お知らせしますね。（文責：加藤）

＼宮城／ 台風19号からの復旧・復興をめざして ～宮城県丸森町災害ボランティアセンター支援レポート～

10月12日に日本に上陸した台風19号。宮城県でも、この台風が日本に上陸する前から大雨が降り続け、甚大な被害を受けました。

宮城県内では13の市町で災害ボランティアによる支援活動が行われ、たくさんの方々に復旧に向けたお手伝いをいただきました。代表理事桒原・宮城事務局菅原は、10月14日から県内に立ち上がった災害ボランティアセンターを巡回し復旧活動に携わってきました。10月下旬からは丸森町災害ボランティアセンターの運営支援を行っています。

12月に入り、寒さもますます厳しくなりましたが、日々ボランティアによる支援活動は続いています。年内に仮設住宅への入居は始まりましたが、被害を受けた自宅で生活を続けていらっしゃる方もいます。まだ雪が降っていないのが幸いですが、年を越すとどうなるか心配です。今年は暖冬のようですが…。

また、丸森町災害ボランティアセンターに来てくださるボランティアの中には、親子で活動するかたの姿もよくみられます。スタッフのお手伝いをしてくれる子どもたちも。また、支援物資と一緒に、応援のイラストやメッセージを書いて送ってくれた子どもたちもいます。県内の高校・大学からボランティアに来てくれる若者もたくさんいて、子どもたちや若者の頑張る姿に、私たちスタッフもパワーをもらっています。

福祉・防災学習コーディネーターとしても、この災害を通してますます日頃の防災の大切さを感じているところです。（文責：菅原）

代表のつぶやき

地球温暖化の影響は本当に脅威です。世界中で大型の台風・サイクロン・ハリケーンが猛威を振るい、大雨による洪水の発生が後を絶ちません。日本では台風15号・19号によって広域で甚大な被害が発生しました。

本会の活動地域も例外ではありません。福祉・防災学習を進めている宮城県は台風19号で県内各地で被害が発生したため、発災後すぐに被災された方々の支援活動を開始し、この活動は年を越して行います。タイでは、8月に田植えをした稲が枯れてしまいました。結の力も自然には勝てません。フィリピンでは活動エリアでの大きな被害はなかったものの、12月3日にルソン島北部を襲った台風28号によって13人の命が奪われました。

災害の度に思うのは、日頃どれだけ支え合いの精神で地域づくりをしていたかと言うことです。災害時にこの支え合う力が、人びとの命と暮らしの助け合い活動に生きてくるからです。

一方で産業革命以来、化石資源に依存し便利な生活を目指してきた結果が、地球に住む命を脅かす結果となっていることを猛省しなければなりません。